

発行：ボーイスカウト石川県連盟  
 石川県金沢市平和町 1-3-1  
 石川県平和町庁舎内  
 発行責任者：野田 政弘  
 編集責任者：宮東 剛文  
 令和 5年 1月30日発行

## 新年のごあいさつ

『飛躍の年に！』



加盟員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年は癸卯（みずのと う）で「癸（みずのと）」は雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表しています。十干の最後にあたる「癸」は、生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しています。

「卯」は穏やかなうさぎの様子から安全、温和の意味があります。また、うさぎのように跳ね上がるという意味があり、卯年は何かを開始するのに縁起がよく、希望があふれ、景気回復、好転するよい年になると言われています。2023年は癸卯の年で、「癸」と「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し、飛躍するような年になるようです。

本年のスカウト運動に於いて最大の事業は、世

界中のスカウトが4年に一度、相互理解と交流を深める第25回世界スカウトジャンボリーが、お隣韓国に於いて開催されます。県連盟からも指導者、スカウト併せて24名が参加します。

また、昨年、開催予定でした第8回石川キャンポリーですが、開催地珠洲市に於ける群発地震の影響で延期せざるを得ませんでした。今年こそは加盟員の皆様方の開催に向けての沈静化の祈りをもって、何としてもキャンポリーが開催出来ますようにと願うものであります。

一方では、加盟員の減少には歯止めがかからず、昨年12月末での加盟員数は4桁を死守することが出来ずに、残念な思いであります。残りの月日で何とか出来ないものかと、ご協力を願います。干支の卯の意味合いにも有ります様に、「跳ね上がり、これまでの努力が実を結び、成長、飛躍する」ように本年は、加盟員の皆様方のご支援、ご協力をいただき、まずは減少の元である「中途退団抑制」に向けての取組を確実にしない、「わくわく自然体験会」を各団で開催し、新たな加盟員の加入に繋げることが肝要かと考えます。しかし「中途退団抑制」、「わくわく自然体験会」に於いて、加盟員獲得に繋がったとしても、その後の在り方として、新たな加盟員が「がっかり」するような展開だけは避けねばなりません。その為にも指導者の資質の向上が大切な要素になってきます。本年は、その為にも指導者諸兄が大きく自身を見返り、従来からの在り方から大きく飛躍させ、脱皮する年にしたいものです。

そのことが、連盟全体として、飛躍するきっかけになるのではないのでしょうか。

ボーイスカウト石川県連盟  
 理事長 野田 政弘



## BP Voice

### 『B-P 最後のメッセージ』

スカウト諸君

「ピーターパン」の劇を見たことのある人なら、海賊の首領が死ぬ時には、最後の演説をするひまはないにちがいないと思って、あらかじめその演説をするのを、覚えているであろう。私もそれと同じで、今すぐ死ぬわけではないが、その日は近いと思うので、君たちに別れの言葉をおくりたい。



これは、君たちへの私の最後の言葉になるのだから、よくかみしめて、読んでくれたまえ。

私は、非常に幸せな生涯を送った。それだから、君たち一人一人にも、同じように幸福な人生を、歩んでもらいたいと願っている。

神は、私たちを、幸福に暮らし楽しむようにと、このすばらしい世界に送ってくださったのだと、私は信じている。金持ちになっても、社会的に成功しても、わがままができて、それによって幸福にはなれない。幸福への第一歩は、少年のうちに、健康で強い体をつくっておくことである。そうしておけば大人になった時、世の中の役に立つ人になって、人生を楽しむことができる。

自然研究をすると、神が君たちのために、この世界を、美しいものやすばらしいものに満ち満ちた、楽しいところにおつくりになったことが、よくわかる。現在与えられているものに満足し、それをできるだけ生かしたまえ。ものごとを悲観的に見ないで、なにごとにも希望を持ってあたりたまえ。

しかし、幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えることにある。この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするように努力し、あとの人に残すことができたなら、死ぬ時が来ても、とにかく自分は一生を無駄に過ごさず、最善をつくしたのだという満足感をもって、幸福に死ぬことができる。幸福に生き幸福に死ぬために、この考えにしたがって、「そなえよつねに」を忘れず、大人になっても、いつもスカウトのちかいとおきてを、堅く守りたまえ。神よ、それをしようとする君たちを、お守りください。

君たちの友ベーデン・パウエル・オブ・ギルウェル（これは1941年1月8日にベーデン・パウエルがなくなった後、彼の書きものの中から発見された）

### ウッドバッジ研修所課程別研修 ボーイ課程第2期、ビーバー課程第2期

去る11月27日、野々市市富奥防災コミュニティセンターに於いて、ウッドバッジ研修所課程別研修ボーイ課程、ビーバー課程が開催されました。ボーイ課程は手井日連副リーダートレーナーが主任講師で9名の参加者、ビーバー課程は小島日連リーダートレーナーが主任講師で4名の参加者で開催されました。履修者は以下の通りです。

【ボーイ課程】稲葉 大樹（金沢2）、宮 朋美（金沢6）、吉田 直樹・松本 明子・田村 和栄・菅野 陽一・篠崎 美織・大野 優介（以上6名金沢11）、（他県連1名）（敬称略）

【ビーバー課程】武藤 芳明（金沢1）、加藤 伸一（金沢6）、飯田 泰宏（金沢11）、（他県連1名）（敬称略）

### 県連事業参加者募集

令和5年2月19日（日）

石川県連盟 アフタースカウトフォーラム

令和5年2月26日（日）

セーフ・フロム・ハーム研修会

令和5年3月12日（日）

第204回 ボーイスカウト講習会

### スカウトボイス原稿募集

スカウトボイスは、石川県連盟の動きと所属のスカウトの声を幅広くお届けする情報誌です。皆様からの、感動した、楽しかった、苦しかった、友情輪が広がった、等々のエピソードに写真を添えてお寄せください。手書きの原稿も受け付けています。スキャナー取り込みデータまたは原稿をデジカメやスマホで写してボーイスカウト石川県連盟事務局までお送りください。

団の活動紹介もします。我こそはという意気込みのある団は写真を添えて投稿お願いいたします。



## ビーバー・カブの集い

11月13日(日)にビーバー・カブの集いを奥卯辰山県民公園で実施しました。申込みは280名(ビーバースカウト69名、カブスカウト119名、指導者68名、兄弟・体験24名)で、当日の奉仕指導者、保護者を含め302名の参加がありました。

今年度は、日本連盟の100周年にちなみ、「いろいろな100」をテーマとして、ポイントラリーで色々な100を体験してもらいました。

6箇所のポイントは、「100秒」「100歩」「100個」「100回」「100cm」「100g」を体験するゲームでしたが、当日は昼頃から雨が強くなる天候だったため、半分の3箇所をビーバー隊は11グループ、カブ隊は20グループで回りました。悪天候の中でしたが、紅葉が深まる公園内をスカウト達は元気いっぱい「100」を楽しむことが出来ました。

### ポイントラリー結果

#### ・ビーバー部門

- 第1位 金沢第6団Bグループ
- 第2位 川北第1団
- 第3位 野々市第1団

#### ・カブ部門

- 第1位 金沢第21団
- 第2位 金沢第10団Aグループ
- 第3位 金沢第11団Bグループ





## 令和4年度 団・隊指導者、地区役員、県連盟役員合同懇話会

12月3日、4日にかけて令和4年度 団・隊指導者、地区役員、県連盟役員合同懇話会が開催されました。第1部として、「スカウトの教育力を高めるには」のテーマで、講師に日本連盟総コミッショナーの村田禎章氏の基調講演があり、48名の指導者が拝聴しました。

また、第2部としての懇親会には33名が参加、有意義な一時を過ごしました。

### 【「スカウトの教育力を高めるには」要旨】

各団や県連盟で開催する「わくわく自然体験」などのスカウト募集イベントに参加する保護者は共通して「我が子には幸福な人生を歩ませたい」という願いがある。指導者はスカウト運動を通して、この願いに一定レベルの答えを出さなければならない。少年が生涯において幸せな人生を歩むためには、①若いうちに健康な体づくりをすること、②経済的に自立すること、③家庭・学校・職場・地域から信頼を得てよりよい人間関係を築き自分の居場所を作ること、④職業を通じて社会に貢献することができること、の4点を達成することにある。指導者はスカウト運動を通して、これらを達成させるための支援が求められる。こうして少年たちがスカウト運動を通して成長し、社会に出て、「今の自分があるのはボーイスカウトのおかげです」と自信をもって言ってもらえればボーイスカウトの社会的評価が上がり、将来的にはスカウト人口が増加するであろう。指導者はより多くの有能なスカウトを社会に排出してもらいたい。

現在、ベンチャースカウトまでは進歩制度があり、頑張った成果が認められる仕組みが確立している。しかしローバースカウトは一生懸命行ったことに対して認めてもらえる仕組みがない。ローバーにはミッションとして、何に取り組まなければならないかを再度考えてもらいたい。ローバーの3本柱は、自己確立、本運動への奉仕、地域（社会）貢献である。団ではローバー年代のスカウトにあらゆるプログラムの企画・実施を任せて、モチベーションを上げさせることを考えて欲しい。指導者たちが長年にわたり育て上げたローバーを地域のスターとして体験イベントなどで披露し、

保護者には「ボーイスカウトに入ればうちの子もあんな立派な青年になりますか？」と思って貰えるように取り組んで欲しい。

近年、スカウト人口が減少し、かつての班対抗プログラム（対班競点）が難しいという声がしばしばある。ここは少し思考を変えて、防災に絡めてハイキングプログラムを考えると、環境への取り組みや社会問題を考えるプログラム、世のため人のために貢献できるプログラムを考えて欲しい。

